

1 施設について

・広さ、室数、身障者への配慮、研修内容との関連、グラウンド等

2 職員構成について

・分担と内容、勤務時間

3 事業内容について

「いつ、どこで、誰が、何のために、どのように」行うのか、そしてどうなったかを明らかにしておく。

・生涯学習推進体制、家庭教育、青少年教育、女性教育、高齢者教育、成人教育
職員研修、情報教育、ボランティア関係、社会体育、芸術文化関係、その他

*生涯学習事業が、住民の立場に立って体系化されているか。

「ゆりかごから墓場まで」の事業展開は。広域化の必要性。

4 実績について

・講座数・利用人数・学習者の声は生かされているか等

5 各事業について

(1) 生涯学習推進体制

生涯学習推進本部、会議は。社会教育委員の会議は。公民館運営審議会は。

(2) 家庭教育

家庭教育学級の開催、乳幼児を持つ親に対する教室等の充実は。

(3) 青少年教育

体験活動、ボランティア活動の充実は。関係団体との協力は。

(4) 女性教育

学習内容として

①市民として、社会連帯意識の形成に寄与する内容

②女性として、家庭経営の能力を高める内容

③母親として、家庭教育に関心と理解を深める内容

④就労女性として、職業観を確立し、職業についての知識・技能を修得する内容

(5) 高齢者教育

生きがいを見いだすために。

(6) 成人教育

趣味や教養を高めるために。

(7) 職員研修

住民のニーズを的確に捉えるために、研修体制の確立を。

(8) 生涯学習ボランティア体制の整備

(9) 社会体育

スポーツクラブ等の整備。

(10) その他

学級・教室からサークルへ。(利用者の固定化を防ぐ)

参加者ネットワークの形成。

広報活動のあり方。